

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 20年 9月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	2891300044		
法人名	社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団		
事業所名	グループホーム 村いちばんの元気者		
所在地	兵庫県丹波市市島町上竹田2322-1 (電話) 0795-85-6301		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2008年7月28日	評価確定日	2008年9月9日

【情報提供票より】(20年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤 人, 常勤換算 14人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	平屋建て	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(117,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	516 円
	夕食	334 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		1,050 円	

(4) 利用者の概要(6月20日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	5名	要介護2	6名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83.5 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	回春堂 中澤医院
---------	----------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・日常的に花や畑に関わり、田舎暮らしを送っていた高齢者一人ひとりの状況に合った環境づくりや支援に努めている。法人としての地域との関わりは築かれているが、地域の中で利用者や家族、ホームが互いに支え合い、その人の生活を見守っていくことを目指している。そのために地域とのつながりや家族とのきずなを大切にしている。お知らせ等の回覧板を廻し、利用者自治会を検討していることから、利用者は自分の家で地域住民の一人として生活している気持ちを持っていることがうかがわれる。9月のホーム一周年記念で文集を発行予定とのこと、利用者、家族、職員の共同作品が楽しみである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)	・今回が初回である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)	・リーダーの意見を参考に、管理者がまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)	・地域自治会代表者や社協代表者、市職員、家族会代表者、介護相談員とホーム関係者が出席している。開設間もないため、ホームからの状況報告が主である。今回の評価結果を議題に、サービス内容や課題について具体的な意見が出されるよう働きかけていくことが必要と思われる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)	・家族の集いをきっかけに、家族会が年2回定例開催されることとなった。家族間の交流だけでなく意見や要望を積極的に出してもらう機会と捉え、働きかけていく姿勢である。普段の来訪時にも話を聞くようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)	・地域行事への参加は、見学や作品出展、行事協力など出来るかたちで関わっている。ホーム前が小学校通学路で、日常的に子どもと触れ合う機会も多い。地元の商店での買物など馴染みの関係はあるが、積極的に行事に参加してより関係性を深めていきたいとホームは考えている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「ご近所の方々との語らいや趣味の集まり、行事への参加など地域とのつながりを大切にする」「これまで慣れ親しんできた生活が継続できるよう支援し、ご家族とのきずなを大切にする」を理念に掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・ユニット会議、ミーティングで利用者主体のケアを確認している。日々の業務の連絡帳を活用し共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の行事に参加見学したり、作品出展したり協力依頼を受けることもある。小学生の通学時での触れ合いや見守りにも協力している。ホームは家であるので出来るだけ来訪してもらおうと考えており、機会づくりを計画している。		・法人としての地域との関わりは築かれているが、今後、ホーム独自の双方向の交流をさらに進められることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・開設半年ほどである。自己評価は、リーダーの意見を参考に管理者がまとめた。		・個々の職員が自己評価に取り組むことで新たな気づきや振り返りにつながる。今回の評価を通じて職員間で話し合い、今後のケアの質の向上に活用していただきたい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・2ヶ月に1回、地区自治会代表、市職員、社協代表、家族会代表、介護相談員等が参加して行われる。ホームの状況報告が主である。</p>		<p>・今回の評価結果を報告し、ホームのサービス実態や課題について積極的な意見を引き出していき働きかけを求めていくことが望まれる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・開設前後は、手続き等で行き来はあった。市担当職員の協力を得ながら、市内グループホームの連絡会を立ち上げたいと考えている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・利用者ごとの担当職員が、毎月定期報告で利用者の様子等を知らせしている。来訪時には個別に時間を取り報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族会は年2回定期開催予定である。家族の集いで家族と職員が話し合い、その結果家族会設立につながった。ホームは家族間の交流だけでなく積極的な意見や要望も出してもらう機会をとらえている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・法人内の定期異動はある。開設以来離職もあり余裕が無い勤務体制があった。ホームは離職を避けるため、認知症ケアの楽しさやグループホームの良さなどの周知を図りたいと考えている。</p>		<p>・グループホームの特殊性から異動は最小限に抑え、グループホームの目的である馴染みの関係づくりを重視してほしい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・初年度は新任研修と他事業所見学実習を実施した。リーダー職員には介護計画作成のスキル養成研修を実施した。カンファレンスやミーティング時に学習会をしている。記録の仕方等はOJTで行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・ホーム開設時に行った市内グループホーム見学実習は、今後の参考となった。行政の協力の下グループホームネットワーク会議が6月に始動。情報交換及び研修の機会として年4回開催されることとなった。		・管理者とともに職員も含め、交流だけでなく学習会や市への要望など、活発に意見交換できる連絡会を期待したい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・利用者宅を訪問し、日中の体験利用まで家族と相談しながら時間をかけて馴染んでもらうよう支援している。本人に納得してもらうのは難しいが、入居前後は家族の協力をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・日常行為や趣味など、あらゆる場面で一緒にを心がけ学ぶ姿勢を大事にしている。共にすることで気持ちが通じ合い共感度が高まる。方言が自然に出て会話が弾むこともあるが、なれなれしくならないよう注意している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・その日の体調と気分を頭に置き、個々に合わせた接し方で意向を把握するよう努めている。入浴時を利用してゆっくり話しをする場合もある。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・担当職員、計画作成担当者が本人の希望や興味のあることなど、本人の望みを中心にして作成している。今後は本人、家族が参加したカンファレンスの検討を考えている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・利用者の現状を優先したプランの追加や削除など必要に応じて行っている。ミーティングで見直しには至らないが部分的に訂正することもある。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・利用者が昔からのかかりつけ医に受診するときは、ホームの車で送迎をしている。買い物や外食の希望にもできる限り実現できるようにしている。柔軟な支援を心掛け利用者の満足度を高めるよう努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・入所前からの馴染みのかかりつけ医に継続して受診できるように送迎している。昨年、本人と家族の希望により、看取りの直前まで通院介助を続けたケースもある。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・隣接地に同法人の特別養護老人ホームがあり、重度化に対する指針を入居契約時に家族には説明し同意を得ている。しかし、今後、グループホーム自体の終末ケアを検討していく必要があると考えている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・馴染みの関係になり過ぎて、守秘義務を犯すことのないように注意している。一方、利用者の誇りを傷つけるような言葉かけなどをしたときはミーティングなどで話し合い、あったかサポートの自己評価表に記入して反省につなげている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・父の日の外食日には、利用者が広告を見てぜひ行きたいと思っていた店に行き乾杯をした。母の日も希望に添っている。その日をどのように過ごしたいかを利用者から聞き取り、体調に合わせてながらその人らしい暮らしの支援をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・買い物から調理、味見、盛り付け、配膳、片付けにと、利用者と一緒に楽しい会話をしながら行っている。少々の晩酌、外食や出前などもお楽しみメニューとして取り入れている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・希望により毎日の入浴も可能。同性介助や夜間入浴を希望する利用者には希望通りの支援をしている。2人対応で入浴中は安全面への配慮も心掛けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・みんなで得意なことを仲良く手分けして行っている。個別の連絡日誌に「元気報告」の項目をつくり、利用者の隠された力や生き生きとした瞬間を見つけたら記入し、申し送り時に共有している。		・活力を取り戻し介護度が軽くなった人があると聞くが、利用者の生きる力を引き出せる「元気報告」支援を続けてほしい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・散歩支援やかかりつけ医への送迎支援をしているが、買い物には週1回2～3人に分かれて出掛けている。コンサートの付き添いなど、希望に添って利用者の活動範囲を広げていけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・防犯上夜間は施錠しているが、日中は施錠していない。鍵に頼らないケアを職員全員が理解し実践している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・防災マニュアルを作成し、消防署の協力を得て訓練を実施した。緊急用ファイルに利用者の顔写真を添付して、避難介助をしやすいようにしている。今年度は年2回予定している。夜間想定訓練を実施したいと考えている。</p>		<p>・隣接の同じ法人の特養やホーム横のマンションの住民とともに訓練を行い、緊急時の連携・協力方法などを共有しておくことが必要ではないか。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・体調不良の人以外は個別の記録を残していないが、栄養バランス、水分量には注目している。今後は個別に摂取量などの記録をつけ、特養の管理栄養士のアドバイスを受けるなどの取り組みについて検討している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・リビングは季節の花や飾り付けでゆったりくつろげる空間となっている。台所は対面式で、会話を楽しみながら調理を行うことができる。しかし、リビング続きの和室は活用できていないので、利用者とともに利用方法を検討している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・居室の扉には、ほのぼのとした絵入りの「丁目 番地 様」という表札がかかり、自宅訪問をしたように感じられる。廊下から居室の間に踏み込みスペースがあり、丸見えにならない構造であるので、居室は利用者の安心の空間となっている。</p>		

 は、重点項目。